

## 特別支援学校「エシカルチャレンジ」事業 特別支援学校「みんなでエシカル・トライ！！」事業

教育委員会  
特別支援教育課

### 事業内容

特別支援学校の児童・生徒を対象に、令和元年度までは、「特別支援学校のエコステーション化」、「児童生徒の新たな能力開発」という2つの視点から、各特別支援学校の特色や在籍する児童生徒の実態等に応じた「エシカル消費」活動を展開した。令和2年度からは視点を変えて、「特別支援学校ならではのエシカル消費教育の実践強化」、「積極的な地域との連携とエシカル消費の普及拡大」という2つの視点から、活動を展開している。

実施年度	平成30年度～令和元年度、令和2年度
予算	2,500千円
消費者行政強化 交付金活用額	1,250千円
対象	県内の特別支援学校児童・生徒（全学年）



リーフレット

### 事業の特徴・ポイント

- (1) 特別支援学校ならではの「エシカル消費」教育の実践の強化
- (2) 児童生徒の個性をいかした作品作りを全学部で実践
- (3) エシカル商品や製品を家庭や地域に提供
- (4) エコステーションを核とした、リサイクル活動の実践  
⇒地域や保護者等から提供いただいたり、回収に伺いリサイクル資材等を集めたりしている。集まったリサイクル資材を洗浄、分別したり、活用できる物は作品作りに利用したりしている。また、スーパー（株式会社キョーエイ）と障がい者福祉施設が行っているリサイクル活動「はっぴいえこプラザ」と連携して、生徒も一緒にリサイクル活動を行っている。
- (5) 積極的な地域との連携と「エシカル消費」の普及拡大
- (6) 地域企業等と連携した地産地消促進活動
- (7) エシカル作品展の開催



四国霊場札所でのお接待活動で実施した作品展



配布しているエコ作品（しおり等）

### 期待される効果

特別支援学校では、子どもたちの個々の力を結集し、特別支援学校の強みをいかした「エシカル消費」教育の取組を進めることにより、「エシカル消費」の普及拡大、子どもたちの能力開発や地域貢献を行うことが期待できる。

### エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

エシカル消費を啓発するために、スーパーや四国霊場札所など、多数の人が集まる場所で作品展等を実施した。また、作品展や児童生徒の作品配布を複数回行うことで、効果的に啓発することができた。

全ての学校において回収したりリサイクル資材等を活用した作品作りを進めているが、地域への作品提供にはばらつきがある。各学校の取組を共有し、既に実施している学校との共同実施を行うなど、学校間の連携を進めることで、全ての学校がエシカル商品や製品を地域に提供し、エシカル消費等について更に効果的に啓発できるようにする必要がある。

特別支援学校「エシカルチャレンジ」事業  
特別支援学校「みんなでエシカル・トライ！！」事業

教育委員会  
特別支援教育課

事業の効果、成果

特別支援学校4校において、地元企業等と連携し、新商品開発及び地産地消の取組を実施した。

四国霊場札所が近隣にある特別支援学校5校において、リサイクル資材を活用した品をお遍路さんへ配布し、「エシカル消費」の啓発を行った。作品を配布したお遍路さんからは、作品について「素敵な作品ですね」や「活用します」等の声をいただき、児童生徒の意欲が向上した。また、とくしま特別支援学校「きらめきアート展」会場内に「エシカルチャレンジブース」を設けたり、近隣スーパー等と連携し、エシカル作品展を開催したりし、県民への「エシカル消費」啓発を行った。

【地域企業等と連携した地産地消促進活動の取組】

○みなと高等学園 × 株式会社三和『和菓子づくり』

生徒がインターンシップに行った際に、地域での取組を聞き、学校側から6次産業化を連携してできないかと持ち掛けた。実践を進める中で、企業側も、もち米の栽培やおはぎ作りなど積極的に継続して協力してくれている。

○池田支援学校 × 三好素人農事研究會『藍の栽培作業、そば粉のクッキー作り』

傾斜地農法に取り組んでいる団体があり、障がいのある子どもたちと連携した取組ができないかと学校へ連絡があった。現地を見に行ったり、話を聞いたりするなかで、連携した実践につながっていった。障がいのある子どもたちとも積極的に関わっていただいている。

○阿南支援学校 × NPO法人竹林再生会議『竹和紙づくり』

NPO法人が委託事業を受け、放置竹林の整備を行い竹ノ子掘りを実施。そこへ阿南支援学校の生徒が体験に出かけたことがきっかけで、竹和紙作りを一緒に取り組むことになった。障がいのある子どもたちが学校で取り組んだ作業を卒業後もできるようにとNPO法人は精力的に活動をしている。

○池田支援学校美馬分校 × 彩市場かがやき、ワークサポートやまなみ『福祉施設と連携したカフェメニュー』

学校内にカフェを開設する際に、地元のものを提供したいと考え、メニューを外部委託で検討。生徒がインターンシップ等に参加していた福祉施設と連携した。

【特別支援学校児童生徒が作成したエシカル作品】



牛乳パック等を再利用した  
カレンダー



廃材を利用したマグネット



かまぼこ板を利用した  
スプーン



竹和紙で作ったあんどん

事業年間スケジュール

令和元年									令和2年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学部から高等部まで連続性のあるエシカル作品作り・特別支援学校エコステーションを核としたリサイクル活動の実践											
地域企業と連携した地産地消促進の取組											
エシカル作品の地域への提供による啓発											
エシカル作品展等の開催											